

# 宮作便り 第30号

平成21年9月30日発行



## リーダーの教科書

社長 宮本慶太

私が社長に就任してから来年の4月で、10年になります。10年と言えば、一昔二昔前のことになります。そこで、経営計画をリニューアルしようと考え、勉強していたときに出会った本「リーダーの教科書」から書かせてもらいます。

- 1、これまで数多くのビジネスパーソンを見てきた。リーダーになれそうでなれなかった人、ダメになってしまった人、とはどんな人だったのか。①自分がダメだと思っている人②すぐにあきらめる人③友を持たない人④師を持たない人⑤目標を持たない人⑥快適ゾーンに閉じこもっている人⑦学ばない人。
- 2、結果が出ない理由は、そもそも三つしかない。正しいことをやっていない、正しいことをやっているけれどもやり方が間違っている、正しいことを正しくやっているけれども徹底的でない。
- 3、正しい権限委譲とは何か・・・基本的な条件が二つある。そのひとつが「中間報告を受ける」こと（報連相）。二つ目が「ヒントを与える」ことだ。
- 4、リーダーの行動は大きく三つのステップで語るができる。一番目は「方向性」を示すことだ。説得性が高く、発信することによって、部下の心に火をつける。二番目は、自分個人、および自分が率いるチームの目標が、法的、道徳的に正しいプロセスを経ることによって結果を出していくことだ。三番目は、自分の後継者としてのリーダーの人材を育成することによって、企業の継続的発展に貢献すること。
- 5、経営という言葉は、英語で言えばマネジメントということである。Managementの動詞形である「manage」とは、「やりくりする」という意味なのです。つまり、経営とは限られた経営資源のやりくりなのである。

立場によって、色々感じる角度は違うと思いますが、皆さんも一度、考えてみてください。





## ちょっと昔のはなし

サービス課課長 本間富士雄

私が宮作に入社したのが昭和60年7月16日、面接では社長を始め役職の方7,8?人が長机を前にして座っておられ、緊張して面接を受けた思いがあります。

あれから24年、色々なことが思い出されます。

- \* 新入社員として勤め始めると、毎朝おじいさん(申し訳ありません。)が外のゴミを掃除しているんですね。この人はどうゆう人なの、1日勤めている訳でもないしと思いながらも、これは新入社員の仕事だと一緒に片付けたりしていました。が後で聞いてビックリ、宮作の常務取締役を務めた方で、当時は顧問として務められていた片野弦吉さんでした。(大変失礼致しました。)
- \* 入社して初めての社内行事が親和会の生ビール大会。会場は新多久の屋上で、赤い提灯が幾つも下がっていたと思います。その下で先輩方に囲まれ、遠慮がちに飲んでいる中で話したのが遠藤正喜さん、話していると私の5ヶ月先輩との事で少しホットして飲めた事。
- \* 入社後数ヶ月で、分社されたミヤサク設備に異動。異動したといっても同じ社屋内でしたが、その頃はまだ木造の古い建物で、土曜なのか日曜・祭日なのか良く覚えていないのですが、当番での出勤だったと思います。店の奥に黒いソファが置いてある一角がありました。お客も無く太田保雄さんとソファに腰を掛け休んで話をしていました。その中で太田さんが、「本間さんは入社して数ヶ月だけど何年も一緒に居るみたいだね」と言ってくれて、嬉しかったのを覚えています。(言ってくれた太田さんの記憶には絶対無いと思いますが。)
- \* 何年かして私も宮作に馴染んで来た頃に、年に数回、特徴のある声で、「オーイ本間君」と声をかけて来る人が居るんですね。で今日は何かな、何処かなと思いながら近づいて行くと、「倉庫の周りに草が生えてきたからとってくれい」とか「フェンスにツタが絡んできたから取ってくれい」と。ここまで話すと宮作に長く務めている方はピンとくると思いますが。そうです。先先代の宮本脩三社長です、その頃は何で俺がそんな事とを思っていました、今はあの語り口が懐かしく思い出されます。

まだまだ色々語りたいのですが、これ以上語ると、年寄りの昔話が始まったと言われそうなのでこの辺で終わりにします。何でいまさらこんな話をとっていられる方が大半だと思いますが、私、この11月16日でめでたく満60歳を迎えます。そうです前日の15日で定年退職になります。

長いようで本当に短かった24年余でした。始末書を書いたりした事もありました。皆様にはご迷惑をお掛けしたり、お世話になったりで、ありがたく思っております。

今まで表面に出して怒る事はほとんど無かったのですが、最近怒りっぽくなって来たと感じる事があります。この前のアフラックニュースに、怒りっぽくなるのは認知症の初期症状みたいな事が書いてありました。昔の変なことを良く覚えているのと併せると、ナヌ!

11月15日の時点で、その辺を徘徊していなかったら、雇用延長して頂いて、皆さんと又一緒に働ければと思っています。その節はよろしく願いいたします。

## 「9回、ツアアウトから」



建材部 太田保雄

「9回、ツアアウトから」今年の夏は大きな感動をもらいました。

夏の甲子園大会、日本文理高校の活躍です。よく野球ではツアアウトからと言われますが、実際にあの様なドラマがあることを誰も予想出来なかつたでしょう。

私の息子も文理高校野球部にお世話になっていたこともあり、ずっと応援していました。

新潟の高校野球は、甲子園に出て、一つ勝てば上出来と言われていますが、あと一歩で全国優勝に手が届く所まで来たことは夢のようです。息子が三年生の時、学校のグラウンドに全国制覇の横断幕を父母の会で張る作業がありました。その頃は全国制覇は夢の夢だなあと他のお父さん方と話ながら張った思い出があります。それが実際にあと一歩とは…。

ただ、ただビックリです。

大井道夫監督は「甲子園は目標であるけれど、目的ではない」とよくおっしゃっていました。

野球を通して人間形成をしていくということだと思います。

今年の甲子園メンバーは一試合ごとに、自信がつき、顔つきがどんどん良くなっていくのが分りました。

決勝戦でも、最後は敗れはしたけれども、力を出しきり、一人も涙する選手もなく、実に晴れ晴れとした表情が印象的でした。私の息子も、準

決勝、決勝と甲子園に応援に行つて、後輩達から勇氣と感動をもらい興奮していました。私も「9回、ツアアウトから」を思い出し、仕事に向かつていこうと思います。

まだまだ厳しい状況が続くと思われませんが、皆さんと共に、困難に立ち向かつて行きましょう。



## 「新型インフルエンザ」

設備工事事部 石田 浩

朝晩めっきりと涼しくなりまして、皆様がいかがお過ごしでしょうか。

夏場で忘れかけていた新型インフルエンザが牙をむいたかのように、各地から被害の様子がテレビやラジオで毎日報道されています。

「オレは大丈夫だ。」なんて油断しているとお変なことになります。幸い、うちの部所や家族はいまのところ大丈夫です。

皆さんも油断せずに、常日頃のうがいと手洗いなどで予防しましょう。



さて、話は変わりますが、今年の高校野球は、文理ナインのおかげで大変盛り上がりまして。とくに決勝戦のあきらめない粘り強いプレーにはとても感動しました。いつもであれば一つくらい勝つてこいばいいのに！

なんて言っていたのが、また勝つた！

また勝つた！なんだや！ってなことで本当にびつくり&感動でした。

来年は優勝して、もつと驚かせてほしいものです。

追伸 村上もガンバレ！

### 日本文理甲子園の戦績

月日(曜)	回戦	スコア	対戦相手
8/15(土)	2回戦	○4-3	藤井学園寒川(香川)
8/19(水)	3回戦	○12-5	日本航空石川(石川)
8/21(金)	準々決勝	○11-3	立正大湊南(島根)
8/23(日)	準決勝	○2-1	県岐阜商(岐阜)
8/24(月)	決勝	●9-10	中京大中京(愛知)

### 編集後記

鈴木さおり

今回原稿を寄せて下さった皆さん有難うございます。

新型インフルエンザが流行っています。

皆さんも健康に留意してお過ごし下さい。次回の原稿は大平相談役、佐藤正勝さん、五十嵐利幸さん、中山清子さんをお願い致します。